

大手レコード会社が還暦を過ぎた「新人」アーティストを相次いでデビューさせる。それも「オヤジバンド」など趣味の延長で活動するアマチュアではない。光を浴びるのは、長年メジャーでデビューする機会はなかったものの、しっかり固定ファンを抱えるプロたちだ。各社が見据えるのは团塊世代やその周辺層。音楽市場活性化の期待を胸に、地道な発掘作業が進んでいる。

大手レコード各社

「一緒に紅白(歌合戦)にいきましょうね」。今月十七日、東京・代官山のイベント会場は、詰めかけた百人以上の女性客の拍手と歓声であふれかえた。

イベントの主役はシャンソン歌手の若林ケンさん。六月二十七日にニューアルバム「花束」(Bo uquet de CH ANSON)を発売する。

六十二歳でのメジャーデビュードだが、本人は「ネバートゥーレイト。遅すぎることは何もない。燃えて燃え尽きたい」と熱く語る。この日はアルバムに収録する「嘆きの天使」などを五曲を熱唱。歌声に多くのファンが目頭を潤ませた。

「芸歴は長い。一九七〇年代前半から、銀座のシャンソンカフェや自ら経営する店などで歌い続けてきた。甘いマスクと渋い歌声は口コミでファ

「還暦アーティスト」発掘



シャンソン歌手の若林ケンさんは62歳でメジャーでデビューする

落ち込み続く音楽市場

旧譜の活性化や復刻、コンピレーションCDの制作を手がける。会社として「新人」アーティストを育むために、他の分野ではめったにない。若い新人のように投資をして育成する時間がない。中高年でのデビューは完成品」が求められるといふ。長いもので、線につなげて

「一度好きになると、ずっとファンでいる」という。もともと若い人は、たまに演歌で見られるものではない。若い新人のないように投資をして育成する時間がない。中高年でのデビューは完成品」が求められるといふ。

CD販売活性化に期待

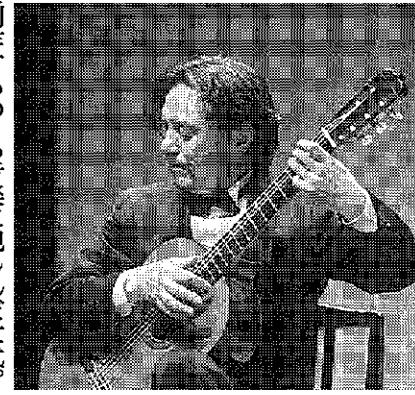
「還暦の新人」デビュー「いきたい」(田和氏)。三谷五億円と、八年連続で減少。関心が高く、配信よりもCD満たす楽曲を地道に提供し続けば、たとえ大ヒットはなくとも、巨大市場を着実に掘り起こせるはずだ。

マーケットだ。そしてこの世代は、もともと音楽に対する関心が高く、配信よりもCD付けられる。大人の渴望感を感じられる。大人の大ヒットはなくとも、巨大市場を着実に掘り起こせるはずだ。

(小川和暢)

ンを引き寄せ、ソロのリサイタルでは「一万人を超える観客を動員する。CDを発売するのはソニー・千代田)。ソニー・ミュージックエンターテインメントの子会社として、

エンタビジネス



長野文憲さんは60歳でギターラシックギターの定番のほか、「黄昏のビギン」含め新タイトルを発売し、話題を継続させようともぐるんでいる。

デビューのきっかけは、SMDRで販促を統括する田和一樹部長は「タレクト(SMDR、東京・千代田)。ソニー・ミュージックエンターテインメントの三谷順一チ

四月上旬、長野県軽井

○五年十二月、コロムビ

アミュージックエンタテ

メントの三谷順一チ

で、アーティストは

「六弦の魔術師」の異名

をもつギタリスト、長野

文憲さん。六月二十日に

六十年でのメジャーデビ

ューが決まった。

アルバム「千の風にな

う」。ギターのCDには

かく品のある音色だろ

う。だが仕事や子育て

が一段落し、再びギター

プロのテクニックをみせ

いた。だが仕事や子育て

が一段落し、再びギター

が一段落し、再びギター